

Classic Pro

CPX500/600/900/1500/2000 POWER AMPLIFIER

取扱説明書 Ver1.01



株式会社 サウンドハウス
〒286-0825 千葉県成田市新泉14-3
TEL:0476(89)1111 FAX:0476(89)2222
<http://www.soundhouse.co.jp> shop@soundhouse.co.jp

目次

安全上の注意	3
はじめに	4
主な特徴	4
製品仕様	5
各部の名称	6
フロントパネル	6
バックパネル	7
操作	8
セットアップ	10
保証書	11

安全上の注意

1. この取扱説明書に従って操作してください。
2. 水には大変弱いため、雨などがかからないよう十分ご注意ください。
3. 内部には精密な電子部品が多数使用されています。移動及び輸送時には大きな衝撃が加わらないようにしてください。
4. 直射日光の当たる場所やストーブの前など、高温になりやすい場所への設置を避け、なるべく通気性の良い場所でご使用ください。
5. 必ず安全で、安定した場所に設置してください。斜め、逆さまの状態を設置しないでください。
6. 使用中に煙、異臭、ノイズが生じた場合、異物や水がアンプ内部へ侵入した場合は、すぐに電源を OFF にし、電源ケーブルを抜いてください。
7. 定格電圧 AC100V, 50/60Hz でご使用ください。
8. 電源コードは機材への挟みこみ等、無理な力が加わらない様ご注意ください。
9. 長時間使用しない場合は電源コードをコンセントから抜いてください。

はじめに

この度は、CPX パワーアンプシリーズをご購入いただき、誠にありがとうございます。
本製品の性能を最大限に発揮させ、末永くお使いいただくため、ご使用になる前にこの
取扱説明書を必ずお読みください。

主な特徴

- 洗練されたブラックパネル、2U ラックマウントデザイン
- アンプの温度上昇を抑える冷却効率の高いヒートシンク、速度可変式の冷却ファン
- 大電流を供給する大型トロイダルトランスフォーマー
- 優れた信号変換回路により、歪みを最小限に抑えたクリアなサウンド
- ステレオ、ブリッジ、パラレルモードに対応
- 各チャンネルに搭載されたシグナル、クリップインジケータ
スピーカーを保護する内蔵リミッター、ON/OFF ミュート保護、DC 保護、
出力ショートサーキット保護、オーバーヒート保護、RF(高周波)干渉保護
- 保護回路作動時、機材を保護する出力ミュート
- フロントパネルはゲインコントロールのみのシンプルデザイン
- より高い安定動作と信頼性を獲得した最新の SMD 技術を採用
- バランス XLR 入出力、スピコン出力
- エフェクトラックにも収納可能な奥行き 25.3cm

製品仕様

		CPX500	CPX600	CPX900	CPX1500	CPX2000
定格出力 1kHz(HIA) 0.5%THD	4Ω ステレオ	200W	300W	450W	750W	990W
	8Ω ステレオ	150W	200W	350W	500W	700W
	8Ω ブリッジ	400W	600W	900W	1500W	1980W
周波数特性(@1W)		20Hz-20kHz、+0-1db				
全高調波歪み (THD)		<0.5%、20Hz-20kHz				
スルーレート		>20V/us				
電圧ゲイン		27dB	29dB	31dB	33dB	34dB
ダンピングファクター(8Ω)		>200				
SN 比 (20Hz-20kHz、A-weighted)		>100dB				
クロストーク		-75dB@1kHz、-58dB@20kHz				
入力感度		0.775V、または 1.4V				
保護回路		リミッター、ON/OFF ミュート保護、出力ショートサーキット保護、DC 保護、オーバーヒート保護、RF(高周波)干渉保護				
換気		前面から背面				
冷却		内蔵ヒートシンク、可変式ファン、熱保護				
寸法		W48.2xH8.8xD25.3 cm				
重量		11.9kg	12.1kg	13.6kg	14.1kg	15.2kg

各部の名称

フロントパネル



1. マウンティング

19 インチ、2U ラックにマウント可能です。

2. FLT

フォルト・インジケータ。オーバーヒートや DC 漏れなど保護回路作動時に点灯します。またパワーアンプの電源をオンにした際も、およそ 3 秒程、点灯します。その後、通常のオペレーティングモードに入ると消灯し、パワーアンプが使用できる状態になります。

3. CLIP

クリップ・インジケータ。各チャンネルへの信号がオーバーロードしてクリッピングが発生すると、クリップ・インジケータが点灯します。このままの状態では音声信号が歪んでしまうため、接続している機材の出力レベルを下げ、過大入力を防いでください。

4. SIG

シグナル・インジケータ。音声信号が入力されている時に点灯します

5. レベルコントロール

出力レベルを調整します。

6. POWER

電源スイッチ。電源を入れる前にレベルが最小であることを確認してください。また電源ケーブルが AC 電源に接続されているか確認してください。電源 ON 時は青色 LED が点灯します。

バックパネル



7. XLR 入出力

XLR 入力はバランス、アンバランスの入力信号に対応しています。各チャンネルの入力端子と出力端子は、並列に接続されており、XLR 端子に入力した信号を、外部アンプなどに送ることができます。

ピン 1 : GND、ピン 2 : +、ピン 3 : -

8. スピコン出力

スピコン端子のスピーカー出力です。スピコン端子のスピーカーケーブルを接続します。

ステレオ/パラレル - : 1+、- : 1-、ブリッジ + : 1+、- : 2+

9. サーキットブレーカー

対応可能オーム数よりも低いインピーダンスで使用、または長時間連続使用によるオーバーロード時、サーキットブレーカーのボタンが飛び出します。その際、自動的に出力はミュートされ、アンプを保護します。復旧するためには、問題が解決されたことを確認後、サーキットブレーカーボタンを押します。

10. ステレオ/ブリッジ/パラレル切替スイッチ

このスイッチにより、ステレオ、ブリッジ、パラレルモードの切り替えを行います。

• ステレオ

CH1 に入力した信号は、CH1 から出力、CH2 に入力した信号は、CH2 から出力

• ブリッジ

CH1 に入力した信号を CH1 (1+、2+) から出力

• パラレル

CH1 に入力した信号を、CH1 と CH2 から出力

11. 感度切替スイッチ

0.775V、1.4V で入力感度の切り替えをします。

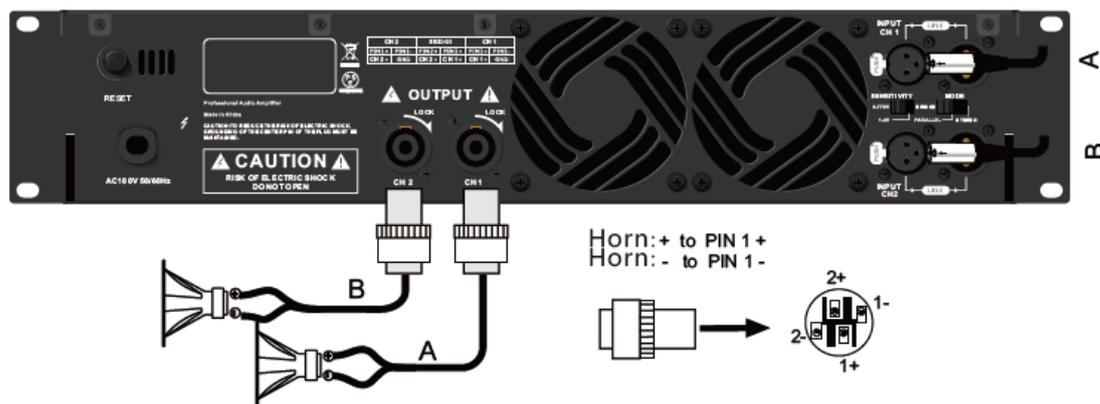
12. AC 電源

100V 50/60Hz で動作します。

操作

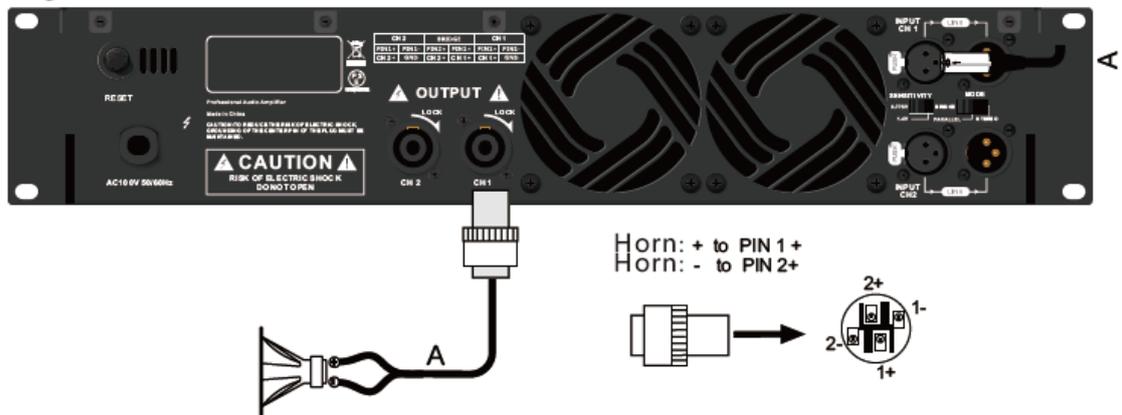
1. ステレオ・モード

設定の前にアンプを含め、すべての音響機材の電源が **OFF** であることを確認してください。ステレオ/ブリッジ/パラレル切替スイッチをステレオに切替えます。次に入力信号をチャンネル1、およびチャンネル2に接続してください。次にアンプ背面にある出力端子にスピーカーを接続します。この時、フロントパネル上にあるゲイン・コントロールが最小レベルまで下げられているのを確認してください(最も左回りの状態)。アンプの電源を入れます。次に入力ソースの出力レベルを上げます。フロントパネル上にあるゲイン・コントロールを使い、出力音量を調節します。出力音量は、クリッピングが発生しない程度に上げてください。



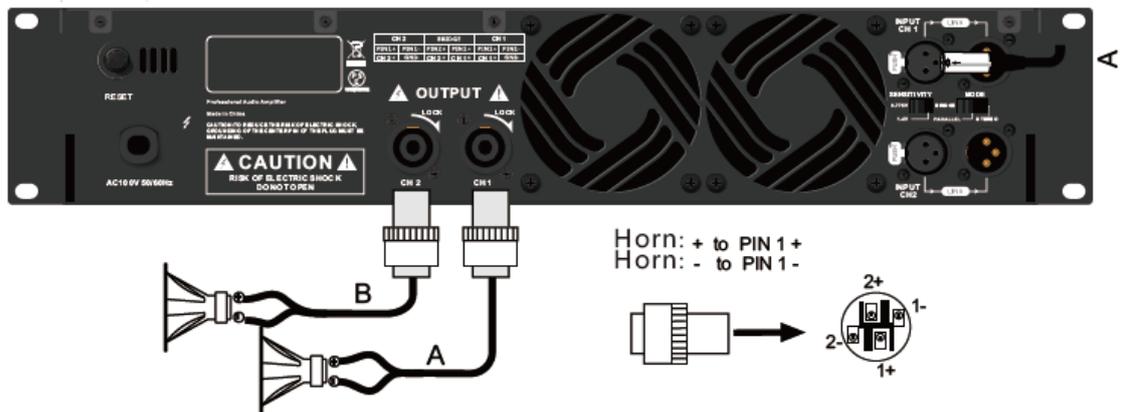
2. ブリッジ・モード

設定の前にアンプを含め、すべての音響機材の電源が **OFF** であることを確認してください。ステレオ/ブリッジ/パラレル切替スイッチをブリッジに切替えます。次に入力信号をチャンネル1に接続してください。次にアンプ背面に配置された、チャンネル1のスピコン端子にスピーカーを接続します。次に音響機材の電源を **ON** にしてください(アンプの電源は最後に入れるようにしてください)。アンプに入力ソースの信号を送信します。アンプの出力レベルを調節するには、チャンネル1のゲインを操作してください。ブリッジ・モードで使用した場合、出力端子の電圧は全体で **100V** 以上に達し、場合により、それ以上の高電圧になることもあります。よって配線は、完全に絶縁されたスピーカーケーブルをご使用ください。またスピーカーのインピーダンスは **8Ω** 以上になるようにしてください。



3. パラレル・モード

設定の前にアンプを含め、すべての音響機材の電源が **OFF** であることを確認してください。ステレオ/ブリッジ/パラレル切替スイッチをパラレルに切替えます。次に入力信号をチャンネル1に接続してください。次にアンプ背面に配置された、スピコン端子にスピーカーを接続します。次に音響機材の電源を **ON** にしてください（アンプの電源は最後に入れるようにしてください）。アンプの電源を入れます。次に入力ソースの出力レベルを上げます。出力音量はフロントパネル上にあるゲイン・コントロールにより、チャンネルごとに調整可能です。



セットアップ

1. 入力端子

CPX シリーズは1チャンネルにつき、XLR バランス入力コネクタと出力コネクタが1つずつ装備されています。ミキサーやチャンネルデバイダー等の出力端子から入力端子に接続します。それぞれの出力端子は入力端子と並列に接続され、外部機器への出力用端子として使用する事ができます。

使用例：XLR ケーブルをチャンネル1 入力に接続します。チャンネル1 出力端子に接続したケーブルを、他のアンプの入力端子に繋いでパラレル接続をすることができます。

2. 出力端子

アンプ背面にあるスピコン出力端子に、スピーカーを接続します。ステレオ、パラレルモードの場合、チャンネル1 およびチャンネル2 出力端子に接続します。ブリッジ・モードの場合、チャンネル1 のスピコン出力端子のみを使用し、スピーカーのプラス・リードをスピコンの1+、マイナス・リードを2+に結線して接続してください。正しい極性設定はスピーカーの位相不一致を防ぎ、結果として低音が損なわれることを防止します。

保証書

ご使用中に万一故障した場合、本保証書に記載された保証規定により無償修理申し上げます。

お買い上げ日より1年間有効

■保証規定

保証期間内において、取扱説明書・本体注意ラベルなどの注意書きに基づき、通常の使用で発生した故障については、無料で修理いたします。保証期間内かどうかは、サウンドハウスからのご購入履歴により確認を行います。保証期間は通常ご購入日より1年ですが、商品によって異なる場合があります。但し、下記のいずれかに該当する場合は、本保証規定の対象外として、有償の修理対応といたします。

1. 不適当なお取り扱い方法により生じた故障の場合(例:イヤホンケーブルの断線、外傷、ボイスコイル焼けなどの故障)
2. サウンドハウスおよび指定のメーカーや代理店が提供するサービス店以外で既に修理された場合
3. お客様自身が行った調整や修理作業が原因となる故障および損傷、もしくは製品に対して何らかの改造が加えられた場合
4. 天災(火災、塩害、ガス害、地震、落雷、及び風水害等)による故障および損傷の場合
5. 製品に何らかの理由で異物が付着、もしくは流入したことによる故障および損傷とみなされた場合
6. 落下など外部から衝撃を受けたことによる故障および損傷とみなされた場合
7. 異常電圧や指定外仕様の電源を使用したことによる故障および損傷とみなされた場合(例:発電機などの使用による異常電圧変動等)
8. 消耗部品(電池、電球、ヒューズ、真空管、ベルト、各種パーツ、ギター弦等)の交換が必要な場合
9. 製品の性質上、必要と思われるメンテナンスがされていない、もしくは充分で無いために生じた故障の場合(例:スモークマシンなど舞台演出装置の目詰まり、機器の清掃、ケーブルの交換等)
10. その他、メーカーや代理店の判断により保証外とみなされた場合

●運送費用

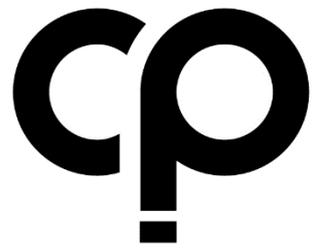
通常、修理品の送付・持込等に要する費用はすべてお客さまのご負担となります。ただし事前に確認のとれた初期不良ならびに保証範囲内での修理の場合は、佐川急便に限り、着払いにてお送りいただけます(下記RA番号が必要です)。沖縄など離島の場合は、着払いでの受付は行っておりません。

●RA番号(返品受付番号)

初期不良または保証内の修理における着払いでの運送については、弊社サポートより発行するRA番号が必要です。ご返送される場合は、必ずRA番号を送り状の備考欄に明記してください。

●注意事項

サウンドハウス保証は日本国内においてのみ有効です。いかなる場合においても、商品の仕様および故障から生じる損害(周辺機器の損害、事業利益の損失、事業の中断、事業情報の損失、またはその他の金銭的損害等)に関して、サウンドハウスは一切の責任を負いません。



Classic Pro